

令和2年4月27日



ICTを活用した介護の方向性について

社会福祉法人 青森社会福祉振興団
理事長 中山辰巳
2020年4月27日(月)
未来投資会議構造改革徹底推進会合

介護をとりまく現在の状況

○介護人材の枯渇

○少子高齢社会 → 要介護高齢者の激増

○介護保険財政の逼迫

○2025年問題 → 最大のミスマッチ時代の到来



ICT・ロボット導入の促進

これまでの法人の取り組み

介護現場へのICT機器の積極的導入と多角的活用

- ①働きやすい職場をつくる → **働き方改革**・・・資料①参照
天井走行リフトの導入
- ②介護業務の**標準化**を進める
- ③ムリムラムダを取り除く
- ④ICT機器を使った高品質の**新しい介護**の創造
- ⑤介護の**労働生産性向上**・・・・・・・・・・資料②参照
- ⑥**非接触型**ICT機器（見守りセンサー等）
は介護現場へ
- ⑦**センサー系**ICT機器（労務管理システム等）
はバックヤード部門へ

コロナウイルス
に強い！！

標準化によるシェアリングケア

→ 介護業務の洗い出しと業務分析・・・資料③参照

シェアリングケア・モジュールケアの導入

- ・ 30分単位の介護業務
- ・ 人員配置 → 専属スタッフの配置
- ・ 業務分担表

例：〇〇時の〇〇介護に〇〇人配置する



効率的・効果的な人的資源（介護職員）の活用

今後の方向性①

労務管理システムの開発

1

勤務シフト自動作成ソフト
(びっくりシフトさん)

2018年12月運用開始

2

出退勤管理

2020年12月運用予定

3

給与計算

2021年12月運用予定

-資料③参照
- ・複雑な勤務シフトの**自動作成**
- ・各自のモバイルへ**自動送信**
- ・**介護業務の見える化**
- ・年次有給休暇管理
- ・**自動認証**
(静脈認証or顔認証)
- ・**自動計算**
- ・給与明細を各自のモバイルに送信

今後の方向性②

安眠プロジェクト . . . 資料④参照

→ 2020年6月スタート

- ・ 特養における夜勤業務を革新的に改善
- ・ 利用者の安眠の保障
- ・ 利用者の自立支援
- ・ 生活の質の向上
- ・ 介護職員の働き方改革
- ・ 介護の労働生産性向上
- ・ シェアリングケアの高度化

今後の方向性③



新型コロナウイルス
で得た教訓

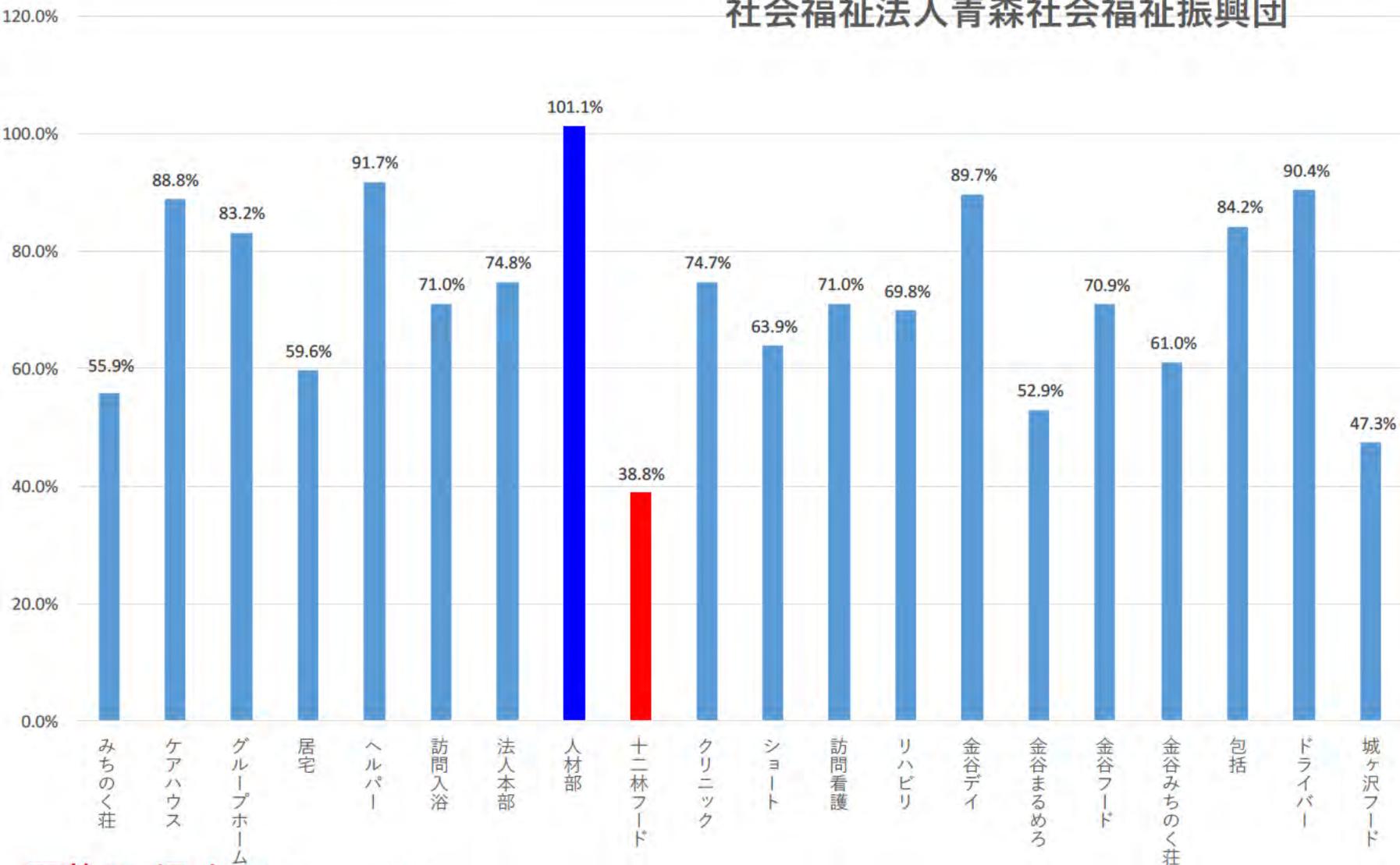
- テレビ会議システムの普及
- テレワークの構築 → 管理部門
- センサー系ICT機器 → 介護現場
- 介護記録 → 入力の省力化、自動化

介護の労働生産性向上



～資料①～

2018年度 年次有給休暇 事業所別取得率表 社会福祉法人青森社会福祉振興団



平均取得率 72.0%

～資料②～ 労働生産性の推移

2017年9月～2019年12月

社会福祉法人青森社会福祉振興団 特別養護老人ホームみちのく荘 施設人員配置

～ 常勤換算 ～

※人員配置：職員1名あたりの利用者人数

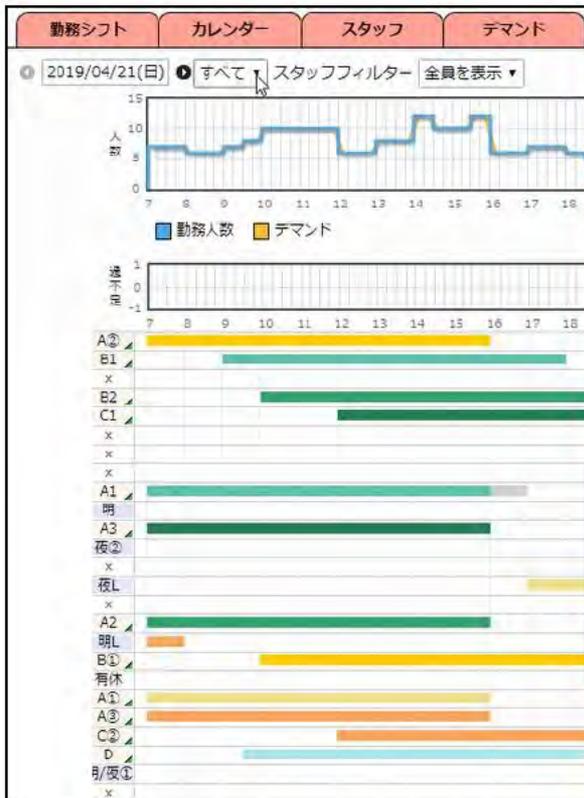
種別	定員	2017年9月	2018年2月	2018年5月	2019年5月	2019年12月
合計 (6ユニット) 60名	60名	①1.83名	②1.90名	③2.06名	④2.46名	⑤2.51名

～資料③～

びっくりシフトさん

デイリープラン

完成シフトからの時間帯毎の全体勤務人数、
出勤スタッフの勤務時間帯をグラフ化したもの。
※人員配置の見える化 → 配置見直しのツール



30分毎の全体人数及び
スタッフ勤務時間帯がグラフ化。11

～資料④～

安眠プロジェクト



高性能オムツ
介護用品

おむつ交換の
効率化



自動体位変換マット
介護機器

体位変換の
自動化

併用での夜間**訪室ゼロ**、そして
静かな**安眠環境**提供へ

PC、モバイルに通知
→職員は遠隔確認



センサー
検知



見守りセンサー機器

必要時のみ
訪室



睡眠・生体センサー



介護業務の
見える化

シフト自動作成
びっくりシフトさん



排泄臭いセンサー

※（導入検討中）